

令和4年度

文部科学省

「地域社会に根ざした高等学校の

学校間連携・協働ネットワーク構築事業

(COREハイスクール・ネットワーク構想)」

～アイ(i)・チイキ(chiiki)・ツナグ(tsunagu)～

成果報告書

愛知県教育委員会

## 目次

1. 事業概要	1
1. 1. 本事業に取り組む課題と目的	1
1. 2. 本事業を通して明らかにしたい事項（調査研究テーマ）	1
1. 3. ロードマップ	4
2. 遠隔授業の実施やその運営体制に関する取組	5
2. 1. 調査計画	5
2. 2. 実施体制	6
2. 3. 取組概要	7
2. 4. 取組内容と考察	9
3. コンソーシアム構築による教育の高度化・多様化に関する取組	11
3. 1. 調査計画	11
3. 2. 実施体制	11
3. 3. 取組概要	14
3. 4. 取組内容（各校の取組（抜粋））	21
3. 5. 考察	35
4. まとめ	36
5. 次年度に向けた計画概要	37
5. 1. 明らかにしたい事項	37
5. 2. 重点的に取り組む事項	37
5. 3. 実施体制	38

## 1. 事業概要

### 1.1. 本事業に取り組む課題と目的

県内の2022年度3月時点の中学校卒業生数は約7万人であるが、2035年度3月時点では1万3000人余り減少し、約5万7000人となると予測している。本事業の構成校は、いずれも中山間地域や半島の先端に位置する高等学校で、令和4年度入学の募集定員は全て80人以下という小規模の高等学校であるが、特にこれらの高等学校では小規模化の影響を大きく受けることになる。現在も、域内のさまざまな生徒層を受け入れ、大学進学から就職までの多様な進路希望に応じた教育・支援を行うという役割が期待されているが、学級数や生徒数の減少に伴って、これまで行ってきた進路希望に応じた科目開設や習熟度別指導の実施など生徒の多様なニーズの全てに対応した指導体制を単独で確保することが困難となってきた。

また、地域連携の取組は、それぞれの高等学校で進んでいるが、教育課程外のイベント的な取組が多く、教育課程に組み込まれた教育活動とはなっていない。

こうした課題に対しては、地域社会との連携・協働によって当該地域ならではの組織的・計画的な探究的な学びを実現するとともに、遠隔授業の実施や、複数の高等学校が教育課程の共通化・相互互換を図り、さまざまな教育資源を共用することによって、小規模高等学校単独ではなし得ない特色・魅力ある教育に取り組む必要がある。本事業では、遠隔授業の運営体制の確立とコンソーシアムの構築をととした系統的、継続的な地域連携によって、生徒の多様なニーズに対応した指導体制の確保と、学校の一層の魅力化・特色化を目的として研究を推進する。

### 1.2. 本事業を通して明らかにしたい事項（調査研究テーマ）

#### (1) 遠隔授業について

##### ①「教科・科目充実型」の遠隔授業などICTも活用した連携・協働の取組

(受信教室における体制の在り方に関する取組を含む。)

遠隔授業の実施について、内海高等学校については、生徒の興味・関心に応じた多様かつ質の高い教科・科目開設（地元資源である観光業に関する学校設定科目等）を目指す。構成校6校に共通することとしては、免許外教科担任制度の利用解消及び地歴、理科に関しては、専門分野以外の教科担任解消を目指す。いずれにおいても、生徒の多様なニーズに応えること、及び受信校の教員の負担軽減を図ることを目的とする（表1）。

表1（科目開設や習熟度別指導の現状または要望）

高等学校名	科目開設や習熟度別指導の現状または要望
内海	地元資源である観光業に関する学校設定科目等の開設を要望
加茂丘	理科、地歴、情報の専門教員の不在
足助	地歴、理科の専門教員の不在
福江	情報の専門教員の不在
新城有教館作手校舎	地歴、理科の専門教員の不在
田口	地歴、理科の専門教員の不在

本県では、総合教育センターからの集中配信方式で遠隔授業を行う。その上で、効果的かつ円滑な遠

隔授業を行う体制の確立を研究する。

## ②遠隔授業を行う運営体制の確立

遠隔授業を実施する際には、授業者と受信校との綿密な打ち合わせやICT機器トラブル等について使用の支援が必要となる。また、本事業では免許外教科担任制度の利用解消等、受信校教員の負担軽減を図ることも目的としており、本事業をとおして、管理機関の適切な支援体制について明らかにする。

遠隔授業を実施する上では、その趣旨を理解し、オンラインでも効果的な授業を実施することのできる授業者が必要である。また、本県では、総合教育センターからの集中配信を行うため、受信校の授業時間に総合教育センターへ継続的に赴くことができる必要がある。本研究において、授業者を確保する方法について標準化を図る。当面は、高い専門性を有する退職校長などを非常勤講師として任用し、総合教育センターの研究指導主事がサポートをしながら、持続可能な任用の在り方について検証する。

## ③多様な学びの質の保証と学校間配信

生徒の多様なニーズに対応するため、総合教育センターからの集中配信だけでなく、学校間の相互配信によって多様な学びを確保する。特に、「観光」という共通したテーマの学びを進める構成校3校（内海高等学校、足助高等学校、福江高等学校）同士がコンソーシアムを構築し、相互配信を行うことで、学びの質の向上及び教員の負担軽減の可能性について検証する。

現在、福江高等学校において観光ビジネスコース、足助高等学校において観光ビジネス類型を設置している。内海高等学校は、地域の観光資源を生かすため、観光に関する学校設定科目等を編成している。令和4年度までに先行して、福江高等学校と足助高等学校の2校間で相互配信の取組を行い、内海高等学校は試行的に参加をする。令和5年度に3校間での相互配信を本格実施し、その効果を検証する。（図1）。

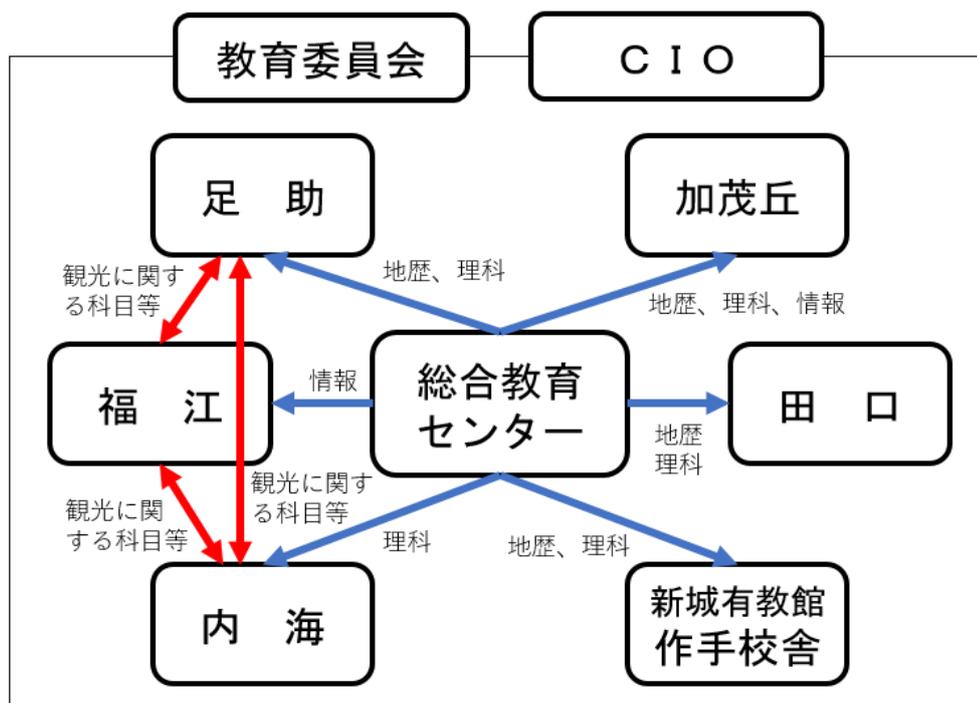


図1 遠隔授業の全体図

遠隔授業では、授業者が受信校の生徒の活動を直接に観察することができないため、学習の見取りを適切に行う必要がある。受信校の職員との連携の在り方や、ICT機器を活用した学習評価の充実についても研究を進める。

## (2) コンソーシアムについて

地域連携の取組は、これまでもそれぞれの高等学校で進めてきているが、イベント的な取組とするのではなく、継続的な連携体制を構築する必要がある。また、構築における成果は他校でも適用できるように標準化する必要がある。

### ① コンソーシアムの構築・運営

#### ア 構築手順の標準化

今までそれぞれの高等学校で行ってきたコンソーシアムの構築及び地域連携について、その手順を標準化することで、構成校以外の高等学校にも適用できるようにし、各校の小規模化に対応できるようにするだけでなく、一層の魅力化・特色化を図るための知見を得る。特に、コンソーシアムを持続的なものにするために、各学校が地域から一方的に支援を得るのではなく、地域と学校が相互に利点を得られる仕組みづくりを模索する。

#### イ 管理機関の支援体制の在り方

教育委員会、総合教育センター、構成校、CIOで構成する事業推進連絡協議会において、事業全般についての進捗状況の報告、課題・問題点の検討、改善策の提案などを行いながら適切な支援の在り方について検討する。

コンソーシアム構築時、あるいは連携開始後において、活動が円滑に進むために行う管理機関の支援の在り方を見いだす。また、地域からの人的、物的、費用面の支援を増加させるための方策について検討する。

### ② 連携による学びの充実

#### ア 教育課程内の取組の充実

今まで行ってきた地域連携では、教育課程外で行うものが多かったが、教育課程内での取組の充実をはかることで、生徒の学習意欲や学びの質の向上を図る。

#### イ 構成校同士のコンソーシアム化による充実

本事業の構成校6校のうち、3校が「観光」をテーマとした学びに取り組んでいる。それぞれの学校が地域の公的機関等とコンソーシアムを構築しているが、3校が相互にそのコンソーシアムに加わることで、学びの深化を図る。また、地域との連携で得られた各学校の知見を相互に共有することで、3つのコンソーシアムによる上層的な大規模コンソーシアムの構築の可能性について検討する。

### 1.3. ロードマップ

#### (1) 遠隔授業について

##### 令和3年度

- ・遠隔授業システムの整備、回線の確保・増強
- ・遠隔授業の試行
- ・ICT機器の活用方法の検討
- ・令和3年度事業検証

##### 令和4年度

- ・遠隔授業の本格実施
- ・ICT機器の効果的な活用
- ・適切な学習評価の在り方の検討
- ・令和4年度事業検証

##### 令和5年度

- ・遠隔授業実施教科、科目の拡大、充実
- ・効果的な配信方式の検討
- ・学校間相互配信の充実
- ・適切な学習評価の在り方の検討
- ・令和5年度事業検証及び令和6年度以降の実施計画策定

#### (2) コンソーシアムについて

##### 令和3年度

- ・コンソーシアムの構築
- ・教育課程外の取組の開始
- ・教育課程内の取組は総合的な探究の時間を中心に検討
- ・構成校どうしの効果的なコンソーシアム構築についての検討
- ・令和3年度事業検証

##### 令和4年度

- ・教育課程内の取組を実施
- ・連携先からの人的、物的な支援の可能性についての検討
- ・構成校どうしによるコンソーシアムでの連携の本格実施
- ・遠隔授業を取り入れたコンソーシアムにおける連携の開始
- ・令和4年度事業検証

##### 令和5年度

- ・教育課程内の取組を充実
- ・連携先からの持続的な人的、物的な支援の確保
- ・構成校どうしによるコンソーシアムでの連携の充実
- ・遠隔授業とコンソーシアムのクロスオーバーによる学びの深化
- ・令和5年度事業検証及び令和6年度以降の実施計画策定

### (3) 管理機関の役割

遠隔授業については、授業者となる講師の確保、効果的なICT機器やアプリケーションの整備を行う。また、遠隔授業の学習効果を定量的に検証し、効果的な配信の在り方について、学校、授業者に指導、助言を行う。

コンソーシアムについては、構築の効果を定量的に検証し、必要であれば、連携先の公的機関等との仲介をしながら連携事業の充実を図るよう、学校に助言する。

いずれにおいても、令和6年度以降の持続的な実施を目指して検証を行う。特に、本来の目的である、小規模校の生徒の学びの充実が図られているか、学校の魅力化・特色化に結び付いているかということについて検証を行いながら、事業の内容を精査する。併せて教員の負担軽減につながっていることも確認する。

## 2. 遠隔授業の実施やその運営体制に関する取組

### 2.1. 調査計画

#### (1) 「教科・科目充実型」の遠隔授業などICTも活用した連携・協働の取組

##### ①実験を含めた遠隔授業の通年実施について

遠隔授業においても、対面もしくはそれ以上の学習効果を保証する配信の在り方について検証する。具体的には、継続して実施する遠隔授業において、ICT機器を活用しながら探究的な学び、主体的・対話的な学びの実践について研究する。

##### ②遠隔授業で活用するICT環境の整備について

受信校においては、生徒一人一台に整備されたタブレット端末と大型ディスプレイの効果的な使い分け、総合教育センターにおいては、効果的な配信機器、アプリケーションの精査を、授業実践と学習評価をもとに検討していく。

#### (2) 遠隔授業を行う運営体制の確立

総合教育センターの研究指導主事が主導する形で効果的な遠隔授業の実施及び学習評価についての研究を行い、研究の成果を授業者に対して伝えながら授業改善を図る方法を確立する。学習評価については、クラウドを活用した見取りや、遠隔授業システムを活用しながら妥当性のあるものとする。併せて、学習用プリントや考査問題の授受の方法、受信校での監督者の役割について明確にし、生徒の学習の充実を図る。

遠隔授業の実践は、ICT機器の活用という面で、対面で行われる授業においても有用な知見となると考えられるため、ここで得られた知見については、研修や各研究会などをおして全県の学校へ普及・還元していく。

#### (3) 多様な学びの質の保証と学校間配信

「観光」という共通したテーマの学びを進める構成校3校（内海高等学校、足助高等学校、福江高等学校）の連携を促し、先行して連携を進めている足助高等学校と福江高等学校が主導する形での3校間相互配信の実施をコーディネートする。その上で、生徒の意欲や観光についての理解の深まりを検証する。

## 2.2. 実施体制

本事業の遠隔授業の目的の一つとして、受信校の教員の負担軽減がある。したがって、受信教室には該当教科以外の教員または実習教員を配置してもよいこととする。

担当する教員に対して、遠隔授業システムについての操作、トラブル対応などの研修を十分に行う。また、さまざまな事案に対応できる緊急時の対応マニュアルを作成し、受信校における体制を整え、実習教員だけでなく、受信校の全ての教員に対して周知のための研修を行い、適切に対応できるようにする。

配信側と受信側、受信側同士の報告・連絡・相談をオンライン会議などにより密に行い、遠隔授業の際の注意事項、トラブル発生の具体、具体的な対応事例、生徒の情報などを共有する。また、共有した内容は定期的に、教育委員会、総合教育センター、各構成校の責任者、C I Oに報告し、必要に応じて検討・改善を図る。

受信教室にいる者は、教授は行わないが、生徒の取組に対して指導を行う必要があるし、その点、今回指導を予定している教員または実習教員は、日頃から生徒との交流もあり、指導の経験もあるので、生徒は安心して授業を受けることができる。

愛知県では、令和2年度に各学校にICT機器の整備を行うとともに、構成校6校には生徒一人1台タブレットや大型提示装置の配備、通信回線の増強などを行った。これにより、各構成校においては、全学年全てのクラスにおいて生徒一人1台タブレットを活用とした学習活動が同時に展開できる環境が整っている。

また、マイクロソフトのMicrosoft 365を県全体で契約し、生徒、教員ともに一人ずつアカウントを発行している。さらに、愛知県は日本マイクロソフト社と連携・協力に関する包括協定を締結しているので、オンライン学習の推進に関する協力を得ることができ、アプリケーションやサービスの活用に関する教員研修や教材の共同開発が可能である。本事業の遠隔授業システムについても、マイクロソフトのさまざまなアプリケーションやサービスの活用を予定している。具体的には、Microsoft Teamsを利用した双方向の音声、映像、データのやりとりが、遠隔授業においてどれくらい活用できるかについて検証する。さらに、生徒一人1台タブレットの配信側の教員による画面の確認、操作の制御等は、Sky Menu Cloudを導入して行う。

運営体制に関する取組として、遠隔授業については令和3年度に、総合教育センターを拠点とする遠隔授業の配信の際の人員の確保（配信側及び受信側）、構成校同士の遠隔授業の際の教育課程の共有化及び運営体制の構築に取り組んだ。また、地域連携コンソーシアムの構築については、それぞれのコンソーシアムの設立、各構成校の教育課程に組み込むための検討、連携先との学習プログラムの構築に取り組んだ。令和4年度には、それぞれの取組を進め、年度末に検証・改善を図り、令和5年度の取組につなげ、最終的に事業全体を総括する。事業終了後の令和6年度以降も継続できる体制づくりが目的である。

### ①事業推進連絡協議会等の実施

事業推進連絡協議会は、教育委員会、総合教育センター、構成校、C I Oで構成し、事業全般についての進捗状況の報告、課題・問題点の検討、改善策の提案などを行う。年間3回程度は、集合により開催し、月1回程度は、オンラインにより開催する。

構成校の校内委員会は、管理職、担当教員で構成し、必要な場合は、C I O、教育委員会の担当者、総合教育センターの担当者、地域連携コンソーシアムの関係者も参加する。校内における進捗状況の報告、課題・問題点の検討、改善策の提案などをテーマとして、月1回以上開催する。

構成校同士で連携する場合は、該当の構成校による協議会（合同校内委員会など）を行い、遠隔授業を行う教科・科目の検討、指導計画の作成、連携の具体などについて協議を行う。オンライン会議を基本とし、該当する構成校の判断により適宜行う。

### ②遠隔授業実施のための人員配置の検討

総合教育センターを配信側として行う遠隔授業を担当する教員の人員配置について、令和3年度中に県教育委員会で検討し、令和4年度から配置できるようにした。

### ③構成校への支援体制

C I O、教育委員会の担当者、総合教育センターの担当者による指導・助言を適宜行うとともに、遠隔授業の実施については、日本マイクロソフト及びリクルートからの支援を予定している。愛知県は、日本マイクロソフトと連携・協力に関する包括協定を締結している。また、リクルートは、教育支援サービスであるスタディ・サプリを、令和2年度及び令和3年度は愛知県全体で契約した。令和4年度も構成校6校については契約を行う予定である。日本マイクロソフトは、Microsoft 365に関する教員研修、各種機能の提案など、リクルートは、スタディ・サプリに関する教員研修、各種機能の提案などの支援を行う。

## 2.3. 取組概要

### (1) 年間を通じた実施

受信校	教科	科目	遠隔授業を実施した授業回数 (対面授業を除く。)
加茂丘	情報	情報 I	117
足助	理科	生物基礎	110
新城有教館作手校舎	理科	地学基礎	64

### (2) 構成校による相互配信

#### ①「観光」についての学びを進める総合的な探究の時間

実施校：足助高等学校、福江高等学校、内海高等学校

時期	内容
9月	地域の魅力についての発表
11月	地域の課題解決プロジェクト中間発表会
1月	地域の課題解決プロジェクトの発表会
2月	探究交流

#### ②「情報 I」の試行

実施校：加茂丘高等学校から福江高等学校へ配信

1月、2月の2回実施し、学校間配信

(3) その他遠隔授業に係る取組

月	実施内容
6月	観光をテーマにした県外の高校との交流授業（福江高）
7月	構成校訪問指導（作手校舎、総合教育センター）
10月	構成校訪問指導（足助、総合教育センター）
11月	SKY MENU Cloud 遠隔授業担当者研修（総合教育センター） 愛知県理科教育研究大会における遠隔実験授業の研究発表（総合教育センター）
12月	SKY MENU Cloud 構成校訪問研修（加茂丘、総合教育センター）

2.3.1. 遠隔授業実施表

配信拠点	受信校	教科名	科目	開設学年	配信校生徒の有無	遠隔授業実施理由	試行・本格実施の別（R3・R4・R5）	受信側の配置体制	遠隔授業実施回数/全授業回数
足助高校 福江高校	内海	総合的な探究の時間	総合的な探究の時間	1、2	有	多様な教科・科目開設	R3：試行 R4：本格実施 R5：本格実施	教員	6/58
総合教育センター	加茂丘	情報	情報 I	1	無	専門性の高い指導の実施	R3：試行 R4：本格実施 R5：本格実施	教員	117/124
総合教育センター	足助	理科	生物基礎	1	無	専門性の高い指導の実施	R3：試行 R4：本格実施 R5：本格実施	教員	110/113
福江高校 内海高校	足助	総合的な探究の時間	総合的な探究の時間	1、2	有	多様な教科・科目開設	R3：試行 R4：本格実施 R5：本格実施	教員	6/60

							実施		
福江高校 内海高校	足助	商業	観光	2	有	多様な 教科・ 科目開 設	R3：試行 R4：本格 実施 R5：本格 実施	教員	4/64
足助高校 内海高校	福江	総合的な 探究の時 間	総合的な 探究の時 間	1、2	有	多様な 教科・ 科目開 設	R3：－ R4：試行 R5：本格 実施	教員	6/60
加茂丘高 校	福江	情報	情報 I	1	無	専門性 の高い 指導の 実施	R3：－ R4：試行 R5：本格 実施	教員	2/65
総合教育 センター	新城 有教 館作 手	理科	地学基礎	1	無	専門性 の高い 指導の 実施	R3：試行 R4：本格 実施 R5：本格 実施	教員	64/66

## 2.4. 取組内容と考察

### (1) 「教科・科目充実型」の遠隔授業などICTも活用した連携・協働の取組

#### ア 実験を含めた遠隔授業の通年実施について

令和3年度に整備した遠隔授業の配信・受信システムを稼働し、加茂丘高校「情報 I」、足助高校「生物基礎」、新城有教館高校作手校舎「地学基礎」の授業について、通年で実施することができた。特に、遠隔でのリアルタイム配信が困難であると予想された理科の実験授業について、複数回実施することで遠隔授業の可能性を広げることができたことは成果の一つと言える。この取組については、愛知県理科教育研究会高等学校部会研究大会（刈谷市産業振興センター、11月29日開催）において研究発表を行い、成果を普及させたほか、新聞（中部地域のブロック紙）にも大きく掲載されるなど、遠隔授業に対する関心を高めることに貢献した。

#### イ 遠隔授業で活用するICT環境の整備について

令和3年度に整備したICT機器等を有効に活用することができた。一方、授業担当者によって使い勝手のよい周辺機器が異なることが分かり、書画カメラなど昨年度中に整備しておくべきであった機器があることが判明した。

遠隔授業を開始した1学期は、大型ディスプレイ等で一斉に講義を行う授業スタイルが主であったが、運営指導委員の視察訪問における指導・助言を踏まえ、2学期以降は生徒1人1台タブレット

を最大限に活用するよう、授業改善を図った。個々の生徒の見取りや学習評価において、大きな教育効果が得られることが分かったため、次年度以降もこのスタイルで遠隔授業を進めていく予定である。

遠隔授業を支援するソフトウェアとして、Microsoft Teams を有効に活用し、ビデオ配信や教材の提示、生徒の振り返り等を行った。配信側では複数の端末を併用して拡張ディスプレイを活用するとともに、受信側の端末画面をモニタリングしながら授業を行った。実習における生徒端末の見取りや制御、教材の配付や回収に役立てるため、今年度新たにクラウド型の教育プラットフォームである SKY MENU Cloud を導入したが、2学期に稼働したこともあり、まだ十分に活用できていない。ICT機器やソフトウェアを有効に活用した遠隔授業の在り方について、更なる実践を重ね、検証を進めていくことが望まれる。

#### ウ 受信校側の教員の資質や役割について

今年度、理科の遠隔授業において、科目に精通した教員が専門的な授業を配信することで、生徒の多様なニーズに応えるとともに、受信校側の専門科目外の教員の負担を軽減させることができた。一方、受信校側の教員は、専門科目外であっても同じ教科の教員免許を有する教員または実習教員を配置した方が、教科指導における感覚や生徒の見取りに長けているため、望ましいことが分かった。また、専門科目外の教員が授業に立ち会うことは、自ら学ぶ姿勢のある教員自身の資質・能力の向上につながることを期待される。

### 2.4.1. 目標設定シートに対応した成果と課題

#### 1. (1) 生徒の学力の定着・向上の状況について

全体として、Aが増加しCが減少したが、年間に実施した中の知識・技能の見取りを重視した分野では一部Aが減少した。知識・技能の定着においては、教師が生徒に直接声をかけ指示を出すなどのメンターとしての役割が大きく、今年度実施した遠隔授業ではそれが十分でなかった可能性がある。

#### 1. (4) その他、管理機関が設定した成果目標

設定した項目は次の5点である。

- ①教員の説明・指示、教材の提示は明確であるか（音声など聴覚への情報、板書、プレゼンテーションスライドなど 視覚への情報）
- ②教員と生徒のコミュニケーションは取れているか
- ③生徒の活動を教員が確認できているか
- ④生徒個人への指導ができているか
- ⑤授業以外の時間の生徒への対応（生徒の質問、課題の指示・確認）はできているか

C I Oによる評価の結果は次のとおりである。

①	②	③	④	⑤
A	B	A	B	A

生徒に貸与しているタブレット端末を用いて、資料等の提示、クラウドを活用した課題の提出や質問等を実施したことで、概ねAの評価であった。教員と生徒の個別のコミュニケーション、生徒個人への指導については、Teams の活用やSky Menu Cloud を導入して個別の学びの状況の見取りを図

ったが、複数のアプリケーションを併用することで、一部の生徒が使用方法や使い分けについて理解することができず、十分な効果が上げられなかった事例があった。今後は、使用するアプリケーションの種類や数についても精選を行っていく必要がある。

## 2. (3) 活動指標②：教科・科目充実型の遠隔授業以外の遠隔授業の取組数

構成校どうしによる総合的な探究の時間について本格的に実施することができた。また、免許外教科担任制度の解消を目的とした学校間による遠隔授業を試行できたことは大きな成果であった。

## 3. コンソーシアム構築による教育の高度化・多様化に関する取組

### 3.1. 調査計画

#### (1) コンソーシアムの構築・運営

##### ア 構築プロトコルの標準化

令和3年度より各構成校で行ってきたコンソーシアムの構築、地域連携について、学校運営協議会や推進委員会の設置における、手順の共通事項をまとめる。具体的には、学びのニーズの把握、連携先の選定、連携先とのコンソーシアム構築に向けた手続き等について、共通事項や好事例をまとめる。

##### イ 管理機関の支援体制の在り方

各構成校のコンソーシアム構築についての成果を取りまとめ、共有する。連携開始後においては、連携が円滑に進んでいる学校の事例を参考として他校にも共有しながら、その普遍性について検証する。特に、地域からの人的、物的な支援を増加させるための方策について検討する。

#### (2) 連携による学びの充実

##### ア 教育課程内の取組の充実

観光や福祉など特色ある教育課程について、専門的な深い学びが得られるよう、指導内容や評価について連携先が主体的に関わることを推進し、その上で指導と評価の充実について検証する。

##### イ 構成校同士のコンソーシアム化による充実

総合的な探究の時間において、観光という同じテーマで学習をする構成校同士が、年に複数回発表及び意見交換を行うことで、観光について学ぶことに対する生徒の意欲向上と新たなアイデアの発案が促進されたことを確認する。

### 3.2. 実施体制

地域連携コンソーシアムの構築について、各構成校の構想は次の通りである（表2）。

表2 地域連携コンソーシアムの構築を計画している6校

高等学校名	構 想
内海	観光に関する地域、構成校との連携
加茂丘	地域の再開発計画に関する地域との連携
足助	観光に関する地域、構成校との連携
福江	福祉、観光に関する地域、構成校との連携
新城有教館作手校舎	地域の環境（農業）に関する地域との連携
田口	地域の環境（林業）に関する地域との連携

いずれも、教育課程に組み込むための検討、連携先との学習プログラムの構築を令和3年度中に完了し、令和4年度に連携事業を開始した。地域社会がさまざまな課題と魅力を有していることに着目し、地域社会の歴史や現状に関する理解を深め、地域社会における課題や魅力の発見・課題解決に資する知識及び技能の習得と、習得した知識及び技能の活用に関わる思考力、判断力、表現力等の育成、また、自己の在り方生き方と地域社会のつながりを考えながら、地域社会の持続的な発展や価値の創出に関わり、豊かな人生を切りひらくための学びに向かう力、人間性等の涵養を目的とした。

各構成校では、これまでも地元自治体等や関係機関等との交流は行われており、さまざまな取組を実施している。地元自治体等や関係機関等も地域唯一の高等学校である構成校を地域の大切な存在と捉えており、各校の教育活動に対して大変協力的である。このような現状を踏まえ、各構成校における、地元自治体等の関係機関等との地域協働に取り組むための工夫は次の通りとした（表3）。

表3 地域連携コンソーシアムの構築を計画している6校

高等学校名	地域との協働に取り組むための工夫
内海	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント的であったこれまでの取組を、活動ごとに成果を総括し、評価を行った（大学や自治体職員等による外部評価を含む）。</li> <li>・地元自治体関係者を、教育課程の中（総合的な探究の時間など）での指導者として活用した。</li> <li>・遠隔授業システムにより、海域から離れた山間部にある学校とも、情報交換や情報共有を行った。</li> </ul>
加茂丘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに近隣の藤岡地区（藤岡、藤岡南）で行っていた活動を、今後は範囲を広げ、小原地区、旭地区での活動も行い始めた。</li> </ul>
足助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各団体などと協定を結び、ともに「Win, Win」の関係を構築し事業を持続可能にした（「足助まちづくり連携協定」の締結）。</li> <li>・学校運営協議会及び外部人材組織（地域学校協働本部）の構築</li> <li>・豊田市「おいでん・さんそんプラン（令和3年3月策定）」の重点取組「高等学校の魅力化」に基づく、具体的な方策について検討した。</li> </ul>
福江	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度から、学校運営協議会を立ち上げ、コミュニティ・スクールとなった。その際、福祉、観光の関係者に協議会委員となってもらい、これまで以上に密接な連携を保ち、「社会に開かれた教育課程」の実践に取り組み始めた。</li> </ul>
新城有教館 作手校舎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携校推進委員会を本研究のコンソーシアムの中核とし、同委員会の提言を踏まえた取組を推進することで、中山間地域の教育資源を活用した質の高い中高一貫教育を実現した。</li> </ul>
田口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクールと地域学校協働本部を本研究のコンソーシアムの中核とし、徐々に地域からの協力者を募るように組織化し、コミュニティ・スクールの提言を踏まえた、取組を推進することで、中山間地域における質の高い中高一貫教育を実現した。</li> </ul>

地域連携コンソーシアムを構築する各構成校では、現在までにさまざまな地域連携の取組を行っているが、イベント的な取組が多く、生徒にどのような資質・能力が身に付いたかなどの検証が行われていなかった。そこで、本事業では、地域連携の取組を教育課程に取り入れることを検討し、実施した。

各構成校における地域課題解決に向けた探究的な学び（の一例）は次の通りである（表4）。

表4 地域連携コンソーシアムの構築を計画している6校

高等学校名	地域課題解決に向けた探究的な学び
内海	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内海海岸などのプラスチックゴミを分析しながら環境問題について考察するなど、探究的な学びを行った（総合的な探究の時間の指導プログラムを策定）。</li> <li>・本事業の活動の一環である「南知多・美浜探訪」において地元観光産業の探究学習を進め、SNSや成果発表会において積極的に地域の魅力を発信するとともに地元に対する愛着を深めた。</li> </ul>
加茂丘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「総合的な探究の時間」において、藤岡地区の課題に主体的に取り組み、地域社会の一員であるという意識を醸成することをねらいとした「フジオカしかかたん計画」を立案し、モニタリングや現地調査、地域住民との意見交換を行うなどさまざまな活動を展開した。</li> <li>・文芸部の活動で地域の名所や催しを題材にした「藤岡かるた」を開発して普及活動を進めたほか、家庭科の授業において隣接する小原地区の特産品を使った名物料理の商品開発に取り組んだ。</li> </ul>
足助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光ビジネス類型の学校設定科目「観光」の授業において、足助の町並みや地域の名勝である香嵐渓に脚光を当てた「小学校総合学習プロデュース」を展開し、「高校生ビジネスプラングランプリ」のベスト100に入賞した。</li> <li>・「足助まちづくり連携協定」に基づき豊田市役所足助支所や観光協会等各種団体と協働し、商標登録プロジェクトなどさまざまな企画に取り組んだほか、ラジオCMやミュージックビデオを制作し、SNS等で発信するなどのPR活動を展開した。</li> </ul>
福江	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉、観光の関係者の指導を仰ぎながら、福祉実践コースと観光ビジネスコースの生徒が協力して、老若男女、障がい者が、安心して施設・観光地を利用できるような紹介図、安心して観光できるようなコース紹介等を作成した。</li> <li>・田原市の機関基幹産業である観光をテーマに、地域課題の解決方法を考える「ビジネス発表会」を開催したほか、地元の魅力を伝えるショートムービーを制作し、TikTok等で積極的に発信した。</li> </ul>
新城有教館 作手校舎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大地のめぐみプロジェクト」という名称で、準絶滅危惧種であるサギソウの人工栽培に取り組むことを通じて、地元の自然環境</li> </ul>

	<p>に対する理解を深めるとともに、中学、高校それぞれの生徒の成長を促す場となるような教育課程の研究開発を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高交流授業や地域連携部活動交流を定常的に実施し、作手地区の中高一貫教育を推進した。</li> </ul>
田口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・林業科のプロジェクト学習として、「スマート林業担い手育成事業」を進め、地上レーザー森林解析やドローン実習に取り組んだほか、杉の葉から抽出した成分を使った「森の香りを楽しむスギ石けん」を商品開発するなど、森林資源を有効活用したさまざまな取組を実施した。</li> <li>・国直轄で建設が進む設楽ダム水路の流れを変える「転流式」において、田口町内の杉で制作した「祝い船」を流すなど、地域と協働した事業を展開した。</li> </ul>

今年度、内海高校、足助高校、福江高校の3校間での遠隔授業を開始した。「総合的な探究の時間」などで、観光に関する取組や地域の魅力を伝える取組について、相互に発表し合ったり、地域連携のノウハウ等の情報を共有したりした。また、福江高校の生徒が貸切バスで足助高校に訪問し、現地での協働的な学習を展開したり、COREハイスクールの枠を越えて、足助高校と同じく観光に関する学びに特色のある三重県鳥羽高校を訪問して研修を実施したりするなど、遠隔授業で育んだ交流から派生したさまざまな取組を行った。

### 3.3. 取組概要

#### (1) 実施日程

月	実施内容
令和4年4月	構成校訪問指導（加茂丘、総合教育センター） 北設楽中高一貫教育推進委員会、校長会、教育課程部会（田口高） 地域連携の取組（支所講話・観光協会外部研修：足助高） （足助山ウォークボランティア：足助高） （中高連携推進校長会、中高連携推進部会：作手校舎） （中高一貫教育交流授業：作手校舎、田口高）
5月	学校運営協議会（足助高、福江高） 地域連携の取組（豊田市役所地域振興部職員招へい講座：加茂丘高） （校外美化ボランティア活動：足助高） （お仕事フェア2022（連携中学校と合同開催）：田口高） （大名倉環境学習（普通科）：田口高）
6月	第1回事業推進連絡協議会（全体会） 文部科学省、運営指導委員の視察訪問受入れ（総合教育センター） 学校運営協議会、ワーキンググループ会議（田口高） 北設楽中高一貫教育推進校長会、地域協力者会議、交流部会（田口高） 地域連携の取組（小学校総合学習プロデュース：足助高）

	<p>(ジビエを学ぶ講義：足助高)</p> <p>(渥美商工会の講演、観光学習：福江高)</p> <p>(地域連携部活動交流(弓道部)：作手校舎)</p> <p>(大地のめぐみプロジェクト「サギソウの鉢上げ」：作手校舎)</p> <p>(中高一貫教育交流授業(数学・英語)：作手校舎)</p> <p><u>観光をテーマにした県外の高校との交流授業(福江高)</u></p>
7月	<p>構成校訪問指導(作手校舎、総合教育センター)</p> <p>北設楽中高一貫教育地域連携部会、部活動交流会(田口高)</p> <p>地域連携の取組(足助地域会議との意見交換会：足助高)</p> <p>(校外美化ボランティア活動：足助高)</p> <p>(地元企業・県内大学専門学校見学：足助高)</p> <p>(中馬街道足助宿ボランティア：足助高)</p> <p>(専門学校と連携した福祉に関する実技講座：福江高)</p> <p>(設楽ダムワークショップ、保全施設見学：田口高)</p> <p>(設楽町子どもセンター施設見学：田口高)</p>
8月	<p>地域連携の取組(小原名物料理の開発・審査会：加茂丘高)</p> <p>(「中馬のおひなさん」イベント企画打合せ：足助高)</p> <p>(校外美化ボランティア活動：足助高)</p> <p>(地元企業への就労体験：足助高)</p> <p>(地域と連携した介護実習：福江高)</p> <p>(大地のめぐみプロジェクト「サギソウの交配」：作手校舎)</p> <p>(地元中学生とのサマーセミナー(林業科)：田口高)</p>
9月	<p>第2回事業推進連絡協議会(全体会)</p> <p>学校運営部会、観光部会(足助高)</p> <p>学校運営協議会(福江高)</p> <p>北設楽中高一貫教育地域連携部会(田口高)</p> <p>地域連携の取組(中山間地域一日バス研修ツアー：足助高)</p> <p>(地元企業と連携した農林業視察研修：田口高)</p> <p>(地域課題ワークショップ：田口高)</p> <p>(中高一貫教育交流授業(数学)：作手校舎)</p> <p>(農林業視察研修(林業科)：田口高)</p> <p>(寒狭川環境生態調査・講義(自然探究コース)：田口高)</p>
10月	<p>構成校訪問指導(足助、総合教育センター)</p> <p>学校運営協議会(足助高、田口高)</p> <p>地域連携の取組(足助ラジオCM制作：足助高)</p> <p>(足助高校ミュージックビデオ制作：足助高)</p> <p>(地域ボランティア福祉活動：足助高)</p> <p>(足助の訪問と体験：足助高)</p>

	<p>(探究学習プログラム発表会：足助高)</p> <p>(手話講習会：福江高)</p> <p>(中高一貫教育交流授業(数学)：作手校舎)</p> <p>(鳳来寺山自然科学博物館見学：田口高)</p> <p>(八橋湿地県境学習会(普通科)：田口高)</p> <p>(地元の保育園への訪問実習(林業科)：田口高)</p> <p>(スマート林業担い手育成事業(林業科)：田口高)</p>
1 1 月	<p>北設楽中高一貫教育推進委員会教育課程部会、校長会(田口高)</p> <p>地域連携の取組(地元観光産業の探究学習：内海高)</p> <p>(「藤岡かるた」の地域イベント出展：加茂丘高)</p> <p>(店舗経営企画：足助高)</p> <p>(地元住民との香嵐溪ゴミ拾い：足助高)</p> <p>(郷土学習講演会：福江高)</p> <p>(レクリエーション講習会：福江高)</p> <p>(観光業者と連携したビジネスプラン発表会：福江高)</p> <p>(中高交流授業(数学・英語)：作手校舎)</p> <p>(大地のめぐみプロジェクト「サギソウの定植」：作手校舎)</p> <p>(外部機関や中学校との文化祭合同発表：田口高)</p> <p>(農産物公開販売実習：田口高)</p> <p>県外高校生への足助紹介ツアーアテンド(足助高)</p> <p>観光に関する学習を進める県外の高校への訪問研修(福江高)</p>
1 2 月	<p>東三河中高一貫教育フォーラム(作手校舎)</p> <p>北設楽中高一貫教育推進委員会(田口高)</p> <p>地域連携の取組(地元観光産業の探究学習成果発表：内海高)</p> <p>(子ども食堂の調理補助とイベント企画：加茂丘高)</p> <p>(探究学習プログラム代表発表会：足助高)</p> <p>(地域住民とのクリスマスリースづくり：足助高)</p> <p>(足助の訪問と体験：足助高)</p> <p>(中高連携成果発表会：福江高)</p> <p>(コミュニティ・スクール発表会：福江高)</p> <p>(地元の中学生の一日高校体験学習：福江高)</p> <p>(点字講習会、保育園実習：福江高)</p> <p>(地域の方と語る会：福江高)</p> <p>(大地のめぐみプロジェクト「サギソウの無菌播種」：作手校舎)</p> <p>(サギソウチャレンジ(交流授業のまとめ)：作手校舎)</p> <p>(高齢者デイサービスセンター訪問実習：田口高)</p> <p>(公開講座「門松づくり体験講座」(林業科)：田口高)</p>
令和5年1月	第3回事業推進連絡協議会(全体)

	学校運営協議会（足助高） 北設楽中高一貫教育地域協力者会議、地域連携部会（田口高） 地域連携の取組（課題研究発表会：足助高） （中高一貫教育交流授業（数学・英語）：作手校舎） （事業所への訪問及びインタビュー：田口高） （スマート林業担い手育成事業（林業科）：田口高）
2月	学校運営協議会ワーキンググループ会議（田口高） 地域連携の取組（南知多町との来年度の構想・協議：内海高） （ツール・ド・フジオカウォーキングの協働運営：加茂丘高） （「中馬のおひなさん」参加店舗SNS紹介：足助高） （「知己の課題解決」発表会：足助高） （設楽ダム転流式「祝い船」制作（林業科）：田口高）
3月	学校運営協議会（福江高、田口高） 北設楽中高一貫教育推進委員会教育課程部会（田口高） 地域連携の取組（地域の有識者から学ぶ「働き方講座」：福江高） （林業関係現地見学会（林業科）：田口高） （地域課題学習まとめ発表会：田口高）

## （2）学校間連携を行うための運営体制に関する取組

### ①事業推進連絡協議会

令和4年度は、事業推進連絡協議会を集合形式で3回実施した。参加者は、各構成校の主担当者、CIO、総合教育センターの研究担当の研究指導主事、県教育委員会の担当者である。

○第1回 6月17日（金）午後1時30分から午後4時30分まで

- ・事業全般についての進捗状況の報告、課題・問題点の検討、改善案の提案
- ・総合教育センターを配信元とする遠隔授業の実線報告、構成校同士を結んだ遠隔授業の試行について

○第2回 9月28日（水）午後1時30分から午後4時30分まで

- ・事業全般についての進捗状況の報告、課題・問題点の検討、改善案の提案
- ・学校間遠隔授業及び地域連携コンソーシアムの構築に向けた運営体制の検討

○第3回 1月18日（水）午後1時30分から午後4時30分まで

- ・今年度の取組報告と次年度の取組について
- ・事業全般についての課題・問題点の検討、改善案の提案

### ②文部科学省・内田洋行との集合及びオンライン会議

○第1回実証地域連絡会議 7月13日（水）午後1時30分から午後4時30分まで

- ・遠隔授業を支える体制・教育課程の編成について
- ・遠隔授業を行うICT環境・遠隔授業の授業設計について
- ・地域協働を支えるコンソーシアムの体制について

○第2回実証地域連絡会議 11月29日（火）午後1時30分から午後4時30分まで

- ・講演：小規模校こそ未来は明るい 北海道大空高校 校長 大辻 雄介
- ・実践発表（遠隔授業Ⅰ，Ⅱ，コンソーシアムⅠ，Ⅱ）
- 取組状況のヒアリング調査 12月23日（金）午後2時から午後4時まで
- 令和4年度成果報告会 2月21日（火）午後1時30分から午後4時30分まで
- ・遠隔授業に関する成果・計画について（愛知県：グループ2）
- ・コンソーシアムに関する成果・計画について（愛知県：グループ2）

(3) 市町村、高等教育機関、産業界等との協働によるコンソーシアムを構築し、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

①各構成校におけるコンソーシアムの構築について

各構成校におけるコンソーシアムを構成する団体とコンソーシアムの構築状況は、以下の通りである（表5）。

表5 各構成校におけるコンソーシアムの構築

高等学校名	コンソーシアムを構築する構成団体	コンソーシアムの構築状況
内海	南知多町役場	学校運営協議会を設置
	美浜町役場	
	愛知県立内海高校	
	愛知県立足助高校	
加茂丘	豊田市役所（各支所）	学校運営協議会の設置を推進中
	地区交流館（藤岡、藤岡南、小原）	
	地区中学校（藤岡、藤岡南、小原）	
	地区商工会	
	地区観光協会	
足助	豊田市役所 足助支所	学校運営協議会を設置
	足助まちづくり協議会	
	豊田市足助観光協会	
	三州足助公社	
	足助商工会	
	一般社団法人おいでん・さんそん	
	愛知県立内海高校	
	愛知県立福江高校	
福江	田原福祉グローバル専門学校	学校運営協議会を設置
	渥美商工会	
	社会福祉法人 福寿園 渥美福寿園	

	社会福祉法人 田原市社会福祉協議会	
	愛知県立足助高校	
	愛知県立内海高校	
	渥美半島観光ビューロー	
	田原市子育て支援課	
	田原市商工会	
	田原市教育委員会	
新城有教館 作手校舎	新城市教育委員会	中高一貫教育推進委員会（校長会、部会）を構築
	東三河教育事務所新城設楽支所	
	新城市立作手中学校	
田口	設楽町役場	北設楽中高一貫教育推進委員会（校長会、地域協力者会議、地域連携部会、教育課程部会）を構築
	東栄町役場	
	豊根村役場	
	東三河教育事務所新城設楽支所 設楽教育指導室	
	設楽町立設楽中学校	
	設楽町立津具中学校	
	豊根村立豊根中学校	
	東栄町立東栄中学校	

②各構成校における取組について

令和4年度における各構成校の取組は、以下の通りである（表6）。

表6 各構成校における令和4年度の取組

高等学校名	令和4年度の取組実績
内海	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間において、地域社会の課題や良さを学び、地元の魅力を発信する取組を実施</li> <li>・地域の方を講師に招いた講話等を実施</li> <li>・校内委員会、構成団体との打合せを実施</li> <li>・取組の成果をホームページ、Instagram等で発信</li> </ul>
加茂丘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間において、地域の再活性化を実現するための事業案を企画、提案</li> <li>・ウォーキング企画を協働運営するなど地域行事に積極的に参加</li> <li>・地域の名所や催しを題材にした企画を開発し、普及活動を推進</li> <li>・当該地区に隣接する中山間地の特産品を使った名</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>物料理の商品開発を実施</li> <li>・校内委員会、構成団体との打合せを実施</li> </ul>
足助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会を設置し協議会を実施</li> <li>・総合的な探究の時間において、地域の観光施設への体験活動や課題解決型の学習を実施</li> <li>・観光ビジネス類型における地域の観光に関する様々な探究的な学習を実施</li> <li>・地域の小学校の総合学習をプロデュースした企画を高校生ビジネスプラン・グランプリに応募し、受賞</li> <li>・ラジオCMやミュージックビデオ、SNSなどを活用し、地域や学校の魅力を発信</li> </ul>
福江	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会を設置し協議会を実施</li> <li>・地域の方を講師に招き、観光・福祉に関する講演や講習会、体験活動を実施</li> <li>・観光に関する学校設定科目等で特色がある学校間において、遠隔授業を含む連携事業の拠点校となり、県外の高校とも交流事業を拡大</li> <li>・地元の飲食店の魅力を伝える動画を作成し、TikTok等で発信</li> </ul>
新城有教館作手校舎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学、英語における中高連携授業や地域連携部活動交流を実施</li> <li>・総合実習において中学生との体験活動を継続して実施</li> </ul>
田口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会を設置し協議会を実施</li> <li>・数学、英語における中高連携授業を実施</li> <li>・林業に関する事業所への訪問、インタビュー、体験学習を実施</li> <li>・森林資源を活用した商品を開発し、地域の森林活動協議会を通じて販売</li> </ul>

### 3.4. 取組内容（各校の取組（抜粋））

#### 足助高校の取組



令和4年4月27日（水）1限・5・6限

今年度も2年生観光ビジネス類型を対象に、豊田市役所足助支所地域振興課の方から「足助地域の現状や課題、今後の展望、足助高生に望むこと」をテーマに講話をしていただきました。



また、午後からは、豊田市足助観光協会の方から、観光協会の紹介と、町並みを散策しながら外部研修を行いました。



生徒たちは、今後観光に関する基礎を学び、「自分は足助のまちで何ができるか」など、学習と研究を進めていきます。

## 足助高校の取組

2年生

3年生

お知らせ

観光ビジネス類型

足助高校 観光ビジネス類型 小学校総合学習プロデュース  
前山小学校・中金小学校 6年生

2022年6月1日



6月1日（水）に豊田市立前山小学校・中金小学校の6年生を対象に、足助高校観光ビジネス類型の生徒が総合学習をプロデュースしました。

本校の観光ビジネス類型の生徒が、足助の町並み、香嵐溪の名所をチェックポイントとして10カ所設定し、訪れた小学生に各所の説明やクイズを行いました。通過者にはオリジナルのシールを進呈し、地図兼シールラリー用紙に貼ってもらいました。

本校の生徒も足助高校を取り巻く環境について改めて学ぶ機会になり、とても充実した1日となりました。

なお足助資料館では、豊田市役所文化財課の駒野氏、安藤氏、町並み学習講師の堀部氏に協力をいただきました。

帰る際には、後日家族と観光に来てもらえることを願い、本校生徒が作成した家族向けの観光プランのチラシを配布しました。



前山小学校1・2組出発式



足助八幡宮

2年生観光ビジネス類型 足助地域会議との意見交換会

2022年7月6日



7月6日（水）の5・6限に、豊田市足助支所地域振興部からの依頼に基づき、足助地域会議の新規課題事業検討分科会の委員さん5名をお招きし、陣屋跡地の利活用について意見交換会を実施しました。

本校2年生と委員さんでグループを作り、ブレインストーミングで多様な意見を出し合い、イメージ図を模造紙に書いて発表を行いました。

今後は、今回出たアイデアを含め、広くアイデアを募り、足助地域会議での検討結果を豊田市に提言していくとのことです。



## 足助高校の取組

お知らせ

学校生活

観光ビジネス類型

足助中央商店街（協）・足助商工会×足助高校観光ビジネス類型  
コラボ企画 「小学校総合学習プロデュース」参加者限定ク  
ーポン

2022年7月6



6月1日（水）足助高校観光ビジネス類型「小学校総合学習プロデュース」参加の前山小学校・中金小学校限定の「夏休み町並みツアー限定クーポン」を足助商工会と企画しました。

足助中央商店街（協）の各店舗の協力を得て、お得な限定クーポンを前山小学校・中金小学校の6年生児童とそのご家族に向けて発行いたします。

小学生の皆さんが家族と一緒に、6月とはまた違った「足助の町並み」を満喫してくれることを願っています。

## 足助高校の取組

2年生

3年生

お知らせ

学校生活

観光ビジネス類型

### 2・3年 観光ビジネス類型 外部研修（中山間地域一日バス研修ツアー）

2022年9月9日



9月9日（金）2・3年観光ビジネス類型の生徒が、貸切バスにて中山間地域（旭地区、小原地区）で地域の課題に取り組んでいる方々の現場を見学し、講演を聞くツアーを開催しました。

旭地区のつくラッセルでは、(株)M-easy代表取締役の戸田友介様と一社押井営農組合代表理事の鈴木辰吉様から、小原の交流館ではスズキ広務店代表の鈴木孝典様よりご講演をいただきました。

戸田様からは旭への移住の話からつくラッセルや旭地区の現状について、また、鈴木辰吉様からは、縄文時代から続く集落の現状と「自給家族」の取組についてご説明いただきました。

小原交流館では、鈴木孝典様から広告関連事業で活躍された経験と地域限定旅行業の取組について話をいただきました。

3名の方々の講演を通して、観光ビジネス類型の今後の活動の参考となる話を聞くことができました。また、つくラッセルでは、Duo le lien（デュオルリアン）の方々よりウェルカムソングにて歓迎をいただきました。

## 足助高校の取組

2年生

お知らせ

学校生活

観光ビジネス類型

### 2年観光ビジネス類型 福江高校とのオンライン交流

2023年2月3日



2月1日（水）1・2限に、田原市にある福江高校とオンラインにて交流をし、お互いの学校紹介を行ないました。

2月7日（火）に福江高校の観光ビジネスコースと福祉コースの生徒が足助を訪れる予定で、愛知県内にある山間地域の足助高校と海浜地域の福江高校が、「観光」を共通項としてつながっています。

2月7日（火）は福江高校の生徒による香嵐渓での福祉体験、足助高校の生徒による観光案内を予定しています。





地域ぐるみで藤岡地区の観光を盛り上げる青木さん(左)と加茂丘高の生徒の「豊田市御作町で」

豊田市藤岡地区の御作町で土曜、運動と観光を兼ねたウォーキング講座「ツール・ド・フジオカウオーキング」が開かれる。地区内の観光を盛り上げようと、昨年十月から始まった藤岡交流館主催の連続講座で、御作町の回は加茂丘高校の生徒たちも運営に参加。観光促進の一翼を担う若者たちは、張り切って準備を進めている。

(大谷津元)

「フジオカウオーキング」は、同市藤岡地区上渡「フジ」で、地区内の観光の野外フィットネスコースを巡る。これまで右ストロクター青木宏和さん、豊町や上川口町などで開催し、延べ四十人が参加した。最終回となる御作町での講座。両手に持った専用ポスターは、町内の八柱神社や

クイズ出題や景品づくり

# 高校生 豊田の観光に一役



制作に協力した御城印を紹介する豊田北高の生徒たち＝同市千石町で

## 加茂丘、豊田北高生「御城印」三つ制作に協力

一般社団法人「ツール・ド・フジ」は四日から、豊田市内にある城(城跡)の「御城印」を発売する。第三弾の今回は、御作城と川口城、寺部城の三城。近隣の加茂丘高校と豊田北高校の生徒が制作に協力した。

御作城と川口城のデザインは、加茂丘高校文芸部の生徒が担当。御作城には城跡周辺に咲き誇るフジの花を描いた。同校三年の長谷川清香さん(左)は「御城印を通して地元の城を知ってもらいたい」と話した。

寺部城は豊田北高校書道部の生徒が協力した。制作前には、寺部自治区長の渡辺和夫さん(中)と史跡を見学。同校二年で部長の清水翼さん(右)は「地域の歴史を知ることができた」と笑顔。副部長の伊藤佑華さん(右)は「ぜひ手に取ってほしい」と話した。

御城印はA6判で一枚二百円。同市藤岡飯野町の藤岡観光協会などで販売している。お問い合わせは0565-827777

(大谷津元)

天徳寺、フジの花で知られる「ふじの回廊」など、五つのコースを歩く。御作城が築かれた標高約二百三十メートルの城ヶ根山周辺を歩くため、山の木々や坂の上から望む景色を楽しむことができる。

講座の運営には加茂丘高校の生徒も参加。当日は参加者と一緒に歩き、二方所の休憩場所まで地元に関するクイズを出題する。同校が本年度から進める総合学習の一環で、地域に貢献しようという意気込みで、高校生たちは当日、クイズを出題するほか、地元の木材で作った手製の景品も配布する。同校三年の其田美空さん(左)は「山の木々や澄んだ空気など、田舎の良いところを楽しんでもらえたら」と願った。青木さんも「身近な場所で運動も観光も、できることを知ってほしい」と話す。来年度以降は中山間地から市内全域に活動を広げる構想があるという。フジオカウオーキングの参加募集は締め切っている。

(第3種郵便物認可)

# 加茂丘高生考案 OBR サンド



## 小原のがんもどきや卵材料 店で販売へ

豊田市の加茂丘高校で家庭科授業を選択する三年生十三人が、小原地区の特産品を使った料理「OBRサンド」を考案した。同地区の飲食店に具材やパンズをアレンジしてもらった上で店で販売し、地区の名物料理を目指す。十四日には同校で試食会が開かれた。

(数下千晶)

### 関係者に振る舞い

同高は小原商工会青年部から「小原四季桜まつりなどで販売できる料理を考えて」と依頼を受け、今春から取り組みを始めた。小原の食材を調べ、「どの飲食店でも提供できる」「見栄えがして若者に受けが良い」などの理由からサンドイッチを作ることを決めた。

OBRサンドを考案した加茂丘高の3年生たち  
――豊田市の同校で

生徒たちは個人やグループで、小原の豆腐店のがんもどきをパンに見立てた「豆腐ハンバーグサンド」や、地区特産の卵で作ったタルタルソースと揚げたアユをはさんだ「鮎サンド」などを考案。飲食店がアレンジする際の参考にしてもらおうとレシピ集も作った。

十四日は小原観光協会や地区商店の関係者計十八人に、豆腐ハンバーグサンドとサイドメニューの豆乳プリンを振る舞った。食べた人からは「非常に良い出来でびっくり」「もっとポリユームが欲しい」などの意見があった。

三年生の梅村強さん(も)は「これからも小原をサポートしたい」と話す。小原商工会はOBRサンドを販売する地元飲食店のマップ

**茶 南**  
アビタ安城商  
グエルサワオーク西屋  
製造元

を作ったり、サンドのコンテストを開いたりして、小原の活性化を目指す。

# 田口高校生徒がせっけん考案

## 杉の葉抽出成分使用

### 道の駅などで販売「林地残材」利用法探究

杉の葉から抽出した成分を使った「森の香り楽しむスギ石けん」が16日から、設楽町内の道の駅などで販売される。県立田口高校林業科の歴代3年生が、森林資源を有効活用しようとする試行錯誤を重ねて考案した。先輩たちの努力が形になったことに、現役の生徒らは「実際に商品化されたのはすごい」と刺激を受けている。

田口高では2017年度から課題解決型の学習として、杉の伐採後も山に残される枝葉など「林地残材」の利用法を探究している。生徒らは蒸留器を自作して精油を抽出し、成分に抗菌性があることを実験で確かめてきた。



せっけんを掲げる伊藤さん(左)ら (田口高校で)

せっけん作りに向けては、精油の濃度を変えて泡立ちや香りを試したり、パッケージをデザインしたりといった作業に取り組んだ。一方、今年度の3年生は精油抽出時にできる蒸留水を活用できないかを研究してきた。伊藤玲皇(れおん)さん(18)は、自分たちも実験などで苦労しただけに「商品化はすごく難しいこと。せっけんを通じて田口高の魅力や林業への思いが伝わってほしい」と話した。

同町清崎にある田口高の林業科は、演習林での実習など実践的な授業が特徴。生徒数は3学年合わせて41人で、田原市、岡崎市などの出身者も寮に暮らしながら学んでいる。

せっけんの商品化や販売は一般社団法人東三河森林活用協議会が担った。一つ120円で価格は500円(税込み)。道の駅「したら」につぐ高原グリーンパーク、設楽森林組合で購入できる。問い合わせは同協議会へ電話0536(62)0112まで。(橋本謙蔵)

# 設楽ダム 工事の節目

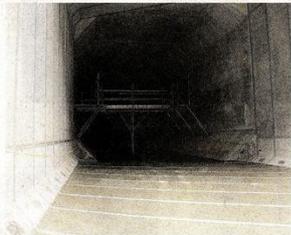
きょう「転流式」川の流れトンネル使い迂回



①「祝い船」の調整をする林業科の生徒たち＝設楽町の田口高で ②転流トンネルの出口部分＝同町清崎で



本流(右手前)の流れを娶えて排水をするためのトンネル入り口＝設楽町清崎で



設楽町の設楽ダムで本格的な本体工事を始めるのに向け、中部地方整備局設楽ダム工事事務所は、二十五日、川の流れをトンネルを使って迂回させる「転流式」を現地で開く。建設地近くの田口高の生徒が造った「祝い船」をトンネルに流して節目を祝う。  
(鈴木智重)

## 地元産スギ使用 田口高生が造った「祝い船」流す

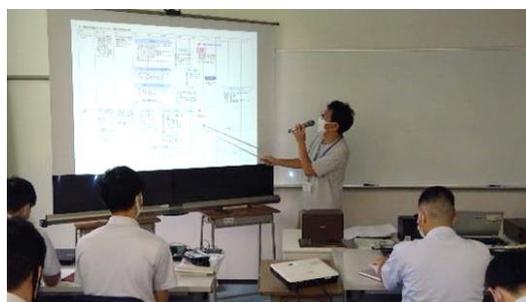
転流はコンクリート製のダム本体を造るため、建設部の水を止める作業。豊川(通称・寒狭川)の流れを、左岸側に通した長さ四百三十二メートルのトンネルで迂回させる。着工や、二〇三四年度に予定する完成に次ぐ、工事の大きな節目にあたるという。  
二十五日午前十時半から同町の奥三河総合センターで開く式典には、工事関係者や東三河の首長、地域住民ら約九十人が出席。現地と映像で結び、転流開始の様子を伝える。工事事務所からの依頼で田口高林業科の三年生四人が造った祝い船と、樹脂製のアヒルのおもちゃ千匹を一緒に、トンネル入り口から出口へと流す。出席者には船に載せる絵馬やアヒルの本体に、メッセージを書いてもらう趣向だ。工事事務所の川村昭彦副所長は「現地と受益地となる下流域の思いが一つとなるような式にしたい」と話す。  
祝い船は設楽産スギ材を使った長さ約一・八メートル、幅〇・九メートル。生徒たちは週一時間の授業と放課後を使い、構想、設計から二カ月がかりで完成させた。工事事務所には今月十七日に引き渡した。船首や船べりに丸みを持たせるため、木材を曲げる力加減に最も苦労したという。富坂玄さん(二)は「高校生活でこんな物が造れるなんて、いい経験になった」と振り返った。

## 報道機関発表資料

提出日	令和4年11月8日（火）
担当職・氏名	愛知県立福江高等学校 教諭 加藤 寛士
連絡先	電話 0531-32-0132 FAX 0531-32-0671

### 件名 福江高校観光ビジネスコースによるビジネス発表会

右の写真は泉ダゲーナの方が授業をしている様子です。



福江高校は、コミュニティスクールとして、地域の企業や市民団体等と協力を得ながら、地域に根付いた特色ある学校づくりに取り組んでいます。観光ビジネスコースでは、田原市の基幹産業である観光をテーマに、田原市の観光が現状抱える課題、活性化のために必要な方策など、実際の「ビジネス」を通じて地域の課題の解決方法を考える実践的な学びを行っています。そして今年度は、廃校となった中学校を拠点とし、田原の泉地区と旧渥美町を活性化するために活動している一般社団法人泉ダゲーナの方々にご協力いただきながら、高校生が地元を盛り上げるためのプロジェクトを考案しました。

つきましては、この取組の一環として、下記期日に「福江高校観光ビジネスコースのビジネス発表会」を開催し、「地域の一員として、地域の方と一緒に地域課題を解決するビジネスプラン」を発表します。

是非とも取材していただき、ご紹介くださいますようお願い申し上げます。

【日 時】 令和4年11月18日（金） 13:30～15:00（予定）

【場 所】 愛知県立福江高等学校 視聴覚室

【内 容】 SNS（TikTok）を活用した田原の魅力発信ビジネスモデルの発表

【その他】 当日は、地域事業者及び専門家の方々が出席される予定です。

## 内海高校の取組

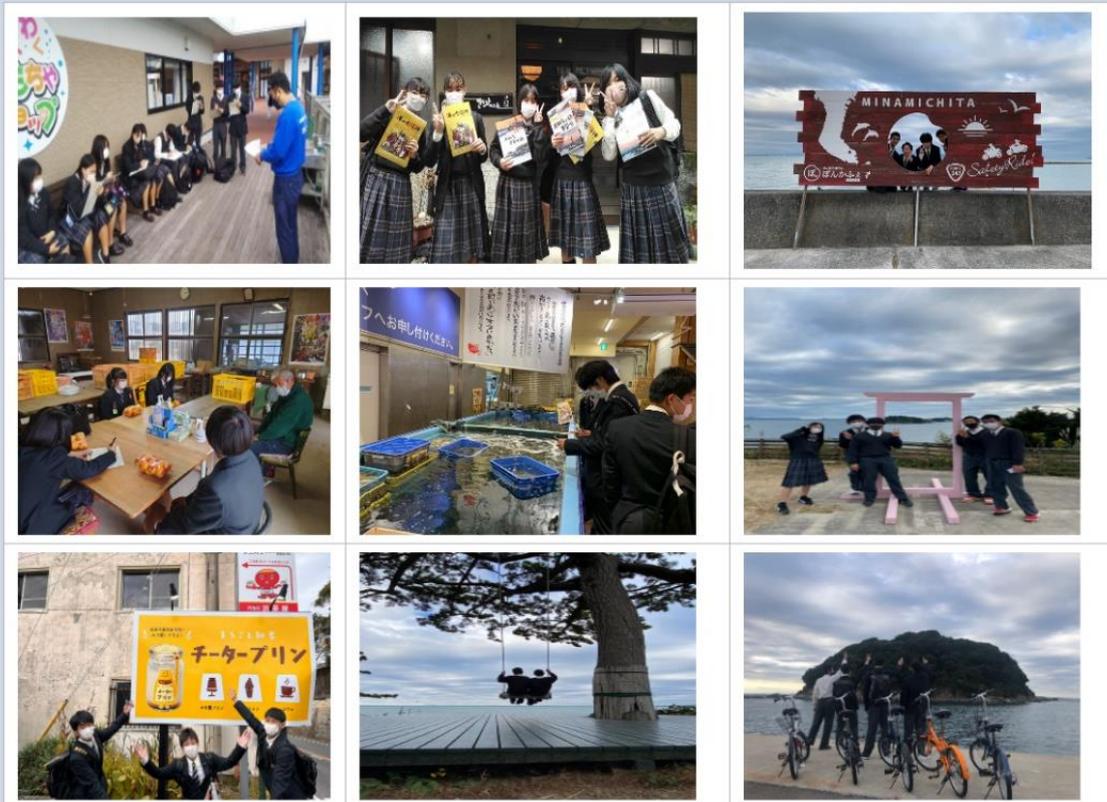
### 【2022. 12. 22 地域連携の取組（地元観光産業の探究学習成果発表）】

【2022.12.22(木)1年生 南知多・美浜探訪 成果発表会】  
COREハイスクールの活動の一環である『南知多・美浜探訪』の成果発表会を各クラスで行いました。それぞれが趣向を凝らした発表で、各所の魅力が十分に伝わりました。地域への愛情がより一層深まっていくといいですね。



### 【2022. 11. 14 地域連携の取組（地元観光産業の探究学習）】

【2022.11.14(月)1年生 南知多・美浜探訪】  
1年生の黒潮タイムではCOREハイスクールの活動の一環で、学校の地元である南知多町・美浜町の魅力を発信するという活動を行っていきます。今日は班ごとに分かれて、実際に両町の魅力を探索しに校外学習を行いました。



## 内海高校の取組

### 【2023. 1. 23 福江高校・足助高校との遠隔授業（遠隔活動発表）】

【2023.1.23(月) 1年生 COREハイスクール 発表】

1年生は福江高校と足助高校とオンラインでつないで、交流授業を行いました。用意したパワーポイントを使って、ビーチランドや日間賀島などの南知多の魅力を伝えたり、他校の生徒と質疑応答をしたりとてもよい経験をすることができました。



### 【学校Instagram】

#### 【2022. 11. 14 地域連携の取組（地元観光産業の探究学習）】



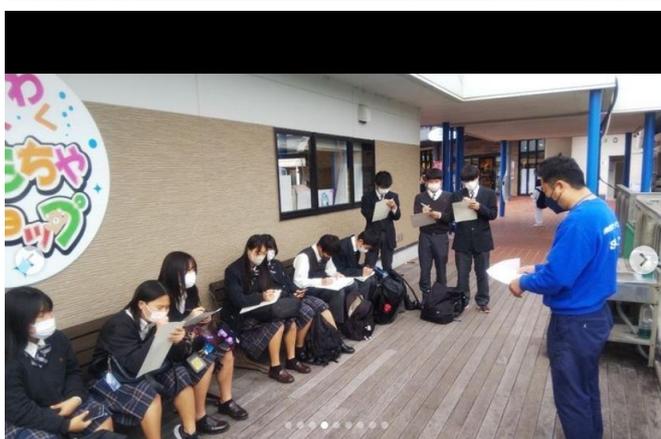
utsumi\_highschool\_official 【島編】1年生は総合的な探究の時間で、南知多の魅力を調査しました。篠島・日間賀島に行き、地元の魅力を肌で感じました。これからレポートにまとめて、ネットワークをつなげた愛知県内の高校と情報交換を予定しています。

13週間前



soll\_e\_matheus、その他が「いいね！」しました

11月 14, 2022



utsumi\_highschool\_official 1年生は総合的な探究の時間で、南知多の魅力を調査しました。ビーチランド、師崎港、魚太郎、篠島、日間賀島、ミカン狩り、カフェ巡り、灯台ラーメン...地元の魅力を肌で感じました。これからレポートにまとめて、ネットワークにつなげた愛知県内の高校と情報交換を予定しています。

13週間前



## 2 教育課程に関する連携

### (1) 目的

中高の6年間の継続的な教育活動により、生徒一人ひとりの個性や確かな学力を伸ばす教育を実現する。

### (2) 教員の交流による連携（交流授業）

授業の機会	曜日	時限	指導者		期待できる効果
中3 数学	水	6	高校教諭	(中学教諭)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームティーチングにより学習効果を高める。</li> <li>・中学と高校の授業の内容を知り、体系的な指導や関連を意識した授業を推進する。</li> <li>・教員と生徒との信頼関係を深め、指導しやすい環境を作る。</li> </ul>
中3 英語	水	5	高校教諭	(中学教諭)	
高1 数学	月	6	(高校教諭)	中学教諭	
高1 英語	金	5	(高校教諭)	中学教諭	
サギソウチャレンジ		12月26日（月）午前8時40分から午前10時40分に作手校舎にて作手中学校3年生を対象とした交流授業のまとめを実施する。 高校入試を想定した問題配付・監督・回収で緊張感を高める。			



作手校舎進学後の作手中学出身生徒は、慣れ親しんだ教諭の来校により、安心感をもって高等学校の学習に取り組める利点がある。今年度は年度当初に年間で実施日を決定して取り組んだので、相互連絡がスムーズに進められた。また、ALTが授業に参加するなど、より質の高い英語教育を実践することができた。

### 3.5. 考察

#### (1) コンソーシアムについて

前年度までの取組を活かし、さらに発展させたさまざまな活動を展開することができた

##### ① 教育課程内の学びの充実

コンソーシアムを構成する公的機関や企業のそれぞれが外部機関とのネットワークをもっており、そうした機関との連携が広がっていくことで、学ぶ意欲の高い生徒が、放課後等にも主体的に活動できる場が提供されるなど、学びの質の向上につながった。コンソーシアムを通じた取組によって、総合的な探究の時間で系統的な取組が開発されるとともに、2週にわたる「探究週間」が開設される構成校があるなど、教育課程の編成にも良い影響を及ぼし始めている。探究的な学びが拡充するとともに、その学習評価にはルーブリックを活用した生徒の見取りが活用されている。

また、福祉についての学校設定科目を開設している学校では、連携先と協働で授業内容や評価方法などの教育課程を開発する取組もはじまり、今年度の大きな成果となった。

##### ② 連携先からの支援の拡充

学校が必要としている人的、物的資源について連携先に具体的に伝えることで、講師となる人材の派遣、移動のためのバスの提供など、自治体等から様々な支援を得ることができた。

いずれの場合においても、学校が必要としていること、またその提供は将来的には地域の活性化につながるものであるということ、学校が主体となって連携先に明確に伝えること、連携を円滑に進める上で非常に重要であることが明らかとなった。コンソーシアムの構築当初は、連携先の多くがコンソーシアムの目的や学校のニーズを正確に把握できていない。地域の活性化、学校の魅力化・特色化を目指すという共通の目的を明確にして連携事業を進めることが重要である。そのために、管理機関も必要に応じて支援をしていく必要がある。

#### (2) 遠隔授業とコンソーシアムの相乗効果について

##### ① 「観光」についての学びを行う学校間でのコンソーシアム構築と遠隔授業の実施

足助高校、福江高校、内海高校の3校は、それぞれの地域に観光資源が充実しており、観光に関するカリキュラムを設定している。3校は、それぞれが地域の公的機関、企業等とコンソーシアムを構成しているが、愛知県ではこれらの学校同士でもコンソーシアムを構成し、観光についての学びの深化を図る取組を行っている。まず、観光に関するコースや類型を設置している足助高校と福江高校の2校による相互配信での遠隔授業について、令和3年度から試行を行い、その可能性を検討してきた。令和4年度にも、3校での相互配信による遠隔授業を試行的に実施した。そこで得られた知見をもとに、総合的な探究の時間で観光についての学びを行う内海高校が令和5年度に本格参加して3校体制での学校間コンソーシアムとなる。

##### ② 成果

学校間での相互遠隔授業をとおして、いずれの学校においても生徒の学びに対する意欲が高まったことが、アンケート等の結果から明らかとなった。学校が構成する一般的なコンソーシアムでは、地域の大人からの支援を受けて学びを充実させるものであるが、学校間でコンソーシアムを構成し、他校の生徒と定常的に交流することが学習意欲の向上に寄与する可能生が見出された。

### 3.5.1. 目標設定シートに対応した成果と課題

#### 1. (2) 地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目等の数（総合的な探究の時間を含む。）

総合的な探究の時間を中心に様々な取組を行うことができたが、今後はそれを拡充していくとともに、地域連携の学校設定科目についても、積極的に開設していくよう学校に促していく。

#### 1. (4) その他、管理機関が設定した成果目標

地域課題の解決等の探究的な学びによる主体的に学習に取り組む態度の変容については、全ての構成校でA評価が増加しC評価が減少した。生徒アンケートでは、「地域の人と共同で問題解決できるのはとても楽しいしやりがいがある。必要とされていると感じる。」といった意見が聞かれた。

#### 2. (3) その他、管理機関が設定した活動指標

地域連携の学習プログラムについては計画通り実施することができた。

## 4. まとめ

### (1) 遠隔授業について

今年度の成果として実験・実習を伴う探究的な学びを実施できたことは大きな成果であった。顕微鏡を使った観察では、生物を専門としていない理科の教員が受信校での監督を行ったが、授業者が事前に詳細な支持を伝えることで円滑に実施することができた。受信校の教員からは、専門的な指示が得られることで安心して授業に臨むことができるとの声が聞かれた。

遠隔授業を行う運営体制については、今年度の本格実施をもっておよそ確立できたと考えられる。ただし、遠隔授業について全県の教員の理解が進んでいないこと、遠隔授業の趣旨を理解し取り組む意欲のある教員が不足しているため、授業者の確保については課題が多い。

### (2) コンソーシアムについて

コンソーシアムの構築による、全ての構成校で生徒の学習に取り組む態度の向上が見られ、今後も地域連携を継続して進めることが、学びの充実につながると考えられる。一方で、現在はそれぞれの学校で独自に連携の方法を模索しながら行っており、コンソーシアムの構築や連携の在り方についての標準化を進めることで、各学校の教員の負担軽減、またその他の学校でコンソーシアム構築が可能となる。

管理機関の支援体制についても同様であり、学校のニーズを地域に伝えたり、地域から人的、物的な支援を得る上で必要な管理機関の支援の在り方については、今後も継続して検討していく必要がある。

### (3) 遠隔授業とコンソーシアム

「観光」という共通したテーマの学びを進める構成校3校（内海高等学校、足助高等学校、福江高等学校）同士による相互配信では、遠隔授業とコンソーシアムの相乗効果について確認ができた。

遠隔授業とコンソーシアムは、それぞれが単独で生徒の学びの充実にも寄与するものであるが、小規模校での多様な学びの保証、学校の魅力化・特色化という共通した課題を解決する上では、それらを協奏的に行う必要がある。

現在、福江高等学校において観光ビジネスコース、足助高等学校において観光ビジネス類型を設置している。内海高等学校は、地元の観光資源を生かすため、観光に関する学校設定科目等を編成している。令和4年度までに先行して、福江高等学校と足助高等学校の2校間で相互配信の取組を行

い、内海高等学校は試行的に参加をする。令和5年度に3校間での相互配信を本格実施し、その効果を検証する。

遠隔授業では、授業者が受信校の生徒の活動を直接に観察することができないため、学習の見取りを適切に行う必要がある。受信校の職員との連携の在り方や、ICT機器を活用した学習評価の充実についても研究を進める。

## 5. 次年度に向けた計画概要

### 5.1. 明らかにしたい事項

#### (1) 遠隔授業について

##### ①配信拠点、配信方法の拡張

令和4年度には、学校間相互配信以外については総合教育センターを配信拠点とする集中方式で遠隔授業を実施した。しかし、授業者となる非常勤講師が遠隔地に在住している場合、配信拠点までの通勤が大きな負担となっていた。配信拠点を総合教育センター以外への設置の可能性について検討をしていく。

また、多様な学びを提供するために、オンラインという特性を生かして、配信拠点以外の場所からの遠隔授業の実施の可能性を模索する。

##### ②授業の質の向上

学校間配信については、タブレット端末を用いて他校生徒との対話的・協働的な授業の展開について研究を進める。

また、令和4年度までの研究結果を踏まえ、学習効果を測定するための項目を精査し、構成校全体で様式や項目を統一して調査を実施し、結果を分析する。

#### (2) コンソーシアムについて

##### ①連携先の主体的な関わり

コンソーシアムにおいて連携の効果を最大化するためには、連携先がもっている知見や人的、物的な教育資源を活用することが必要である。連携を進める上では、学校が連携先にニーズを伝え依頼していくことも必要であるが、連携先が専門的立場から授業等の内容について主体的に提案できるようにすることで、コンソーシアムの効果はより高まると考えられる。そのために、連携先が主体的に関わることができる関係性の構築について研究を進める。

##### ②人的、物的支援の拡充

教育資源の限られる小規模校においては、地域連携による教育資源の獲得がコンソーシアム構築の大きな利点の1つであり、その拡充について研究を行う。

##### ③上層的なコンソーシアムの構築

各コンソーシアムで得られた知見や教育資源について、コンソーシアム間での共有の可能性を検証する。

### 5.2. 重点的に取り組む事項

#### (1) 遠隔授業について

##### ① 構成校以外の高等学校への配信拠点の設置と野外からの配信

授業者となる非常勤講師の自宅に近い県立高等学校（構成校ではない高等学校）に依頼し、そこを配信拠点として継続的な遠隔授業の実施可能性について検証する。

また、多様な学びを提供するために、授業者が博物館や研究施設等に赴き、現地からオンラインでの授業配信を試みる。

## ② 授業の質の向上

観光についての学びを進める3校間配信による総合的な探究の時間において、タブレット端末を用いて他校生徒との対話的・協働的な授業の展開について研究を進める。

また、令和4年度までの研究結果を踏まえ、学習効果を測定するための項目を精査し、構成校全体で様式や項目を統一して調査を実施し、結果を分析する。その際には、「自ら学ぶ力の育成に関する研究」や「情報教育の充実に関する研究（ICT授業活用に関する研究）」など、総合教育センターの他の研究の評価指標と比較しながら検証を行う。

## (2) コンソーシアムについて

### ① 連携先の主体的な関わり

コンソーシアムを通じた教育の充実について、目的や内容、それぞれの役割を各連携先と協議の上で明文化し共有することで、連携先の主体性を引き出す。

### ② 包括的なコンソーシアムの構築

「観光」という共通したテーマの学びを進める構成校3校は、それぞれが地域でコンソーシアムを構築しているが、それぞれの学校も相互に他校のコンソーシアムに加わっている。それぞれの地域で構築されたコンソーシアムがもつ知見や教育資源を、3つのコンソーシアム間で共有する包括的なコンソーシアム構築の可能性について検証を試みる。

## (3) 遠隔授業とコンソーシアム

教科としての見方や考え方を働かせる場面を意図的に設定し、それを通して教科を学ぶ意義を実感させる取組となるよう検討する。地域課題の背景は多様であり、単純な方策では解決に至らないという複雑な構造を理解できる学習を実施し、探究的な学びを目指す。その際、コンソーシアムの取組と遠隔授業の取組をクロスオーバーさせることも検討する。

本事業で得られた知見を基にして、遠隔授業や地域連携コンソーシアムの取組を持続可能な教育活動とするために、「総合的な探究の時間」プログラムへの位置付けや、身に付けた資質・能力の適切・的確な評価を行っていく必要がある。

## 5.3. 実施体制

遠隔授業については、既に総合教育センターを拠点とする遠隔授業の配信の際の人員の確保（配信側及び受信側）、構成校同士の遠隔授業の際の教育課程の共有化及び運営体制の構築をおこなった。令和5年度には、授業者自宅の最寄りの県立高等学校を配信拠点とする取組を行うため、当該校にも機器の運用・管理に関するマニュアルを整備する。また、総合教育センターの研究指導主事がオンラインでサポートできる体制を整える。

地域連携コンソーシアムの構築については、令和5年度に引き続き、遠隔授業の配信拠点である総合教育センターに構成校、CIO、事務局が参集して開催する事業推進連絡協議会等で運営体制に関する取組の検証・改善を図り、最終的に、事業終了後の令和6年度以降も継続できる体制の構築を目指す。

事業推進連絡協議会は、教育委員会、総合教育センター、構成校、CIOで構成し、事業全般についての進捗状況の報告、課題・問題点の検討、改善策の提案などを行った。年間3回、集合により開催する。

構成校の校内委員会は、管理職、担当教員で構成し、必要な場合は、CIO、教育委員会の担当者、総合教育センターの担当者、地域連携コンソーシアムの関係者も参加し、校内における進捗状況の報告、課題・問題点の検討、改善策の提案などをテーマとして、月1回程度開催する。

構成校同士で連携する場合は、該当の構成校による協議会（合同校内委員会など）を行い、遠隔授業を行う教科・科目の検討、指導計画の作成、連携の具体などについて協議を行った。オンライン会議を基本とし、当該構成校の判断により適宜実施する。